

わかるまんがで木曾義仲

第6回 義仲逸話集

義仲の生涯は短く、史実とされている文献も多くはありません。それでもさまざまな逸話が残っているのは、その当時に後世にも、義仲という存在に魅せられた人たちが、後を絶たなかったからではないでしょうか。

あかり

ここまで義仲の生涯を見てきたけど、ほかにも義仲に関するいろんな話が残ってるみたいよ！



あさひ だいき

えー！知りたい！

エピソード1 一族に翻弄された幼い二人

義仲は源頼朝に不満を持つ源行家(義仲・頼朝の叔父)を匿った際、頼朝に「私に敵対するか、行家を引き渡すか」という選択を迫られます。そのとき義仲は、自分を頼ってきた叔父を渡すことはできないと、代わりに成人したばかりの11歳の嫡男、義高を送り出したのです。

息子を差し出されては頼朝も丁重に扱うほかはなく、鎌倉に迎えられた義高は頼朝の娘・当時6歳の^{おおひめ}大姫の許嫁となりました。政治的な判断で夫婦になることになった二人でしたが、とても仲睦まじく過ごしていたと言われています。

しかし結局義仲は頼朝に討たれ、親の敵討ちを恐れた頼朝は義高のことも討ち取ってしまいました。

義高の死を知った大姫は嘆き病気がちになり、その後20歳の若さで亡くなりました。



エピソード2 命の恩人との悲しい再会

幼い頃に父・源義賢を討たれた義仲を、武蔵国から木曾へと密かに逃した人物がいました。義賢に恩があった平氏方の武将、斎藤実盛です。

実盛はその後、拳兵した義仲と加賀国(石川県)での篠原の戦いで敵対することに。老兵である実盛はそれが最後の戦と覚悟しており、最後まで若々しくありたいと白髪を墨で黒く染めて戦いに臨みました。

義仲軍の武将、手塚光盛が討ち取った首を洗い、それが恩人実盛であることが分かると、義仲は涙したと言われています。



義仲たちの生きた証

木曾義仲について書かれた文献には、鎌倉時代に成立したとされる軍記物語『平家物語』や、その異本のひとつ『源平盛衰記』があります。また、日本各地に義仲たちにまつわる逸話や史跡が残っています。

エピソード3 義仲と3人の女武者たち

義仲の乳母子であり、日本史上最も有名な女武将、巴御前。巴は義仲の愛妾であったと言われています。

実は巴以外にも義仲に付き従った女武者として、「葵御前」、「山吹御前」の存在が伝わっており、葵御前は俱利伽羅峠の戦いで命を落としたとして津幡町の隣、富山県小矢部市に「葵塚」が残っています。



エピソード4 義仲の隣に眠る稀代の俳人

滋賀県大津市には、粟津の戦いで壮絶な死を遂げた義仲が葬られた「義仲寺」があります。そしてこの義仲寺、義仲以外にもう一人有名人の墓が。江戸時代の俳人、『奥の細道』で有名な松尾芭蕉です。

芭蕉は今で言えば義仲の「大ファン」でたびたび義仲寺を訪れており、死後は義仲の墓の隣に葬るよう遺言を残したとのこと。

